

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 令和5年度 自己評価表

	評価項目	評価 (昨年度) ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課題	今後の改善方策	特記事項
教育目標 教育理念・	① 教育理念・教育目標が、毎年確認され職員に浸透しているか。	4 (3)	教育理念の明確化を図るべく、10月以降教育目標を変更。「いつでもどこでもだれとでも仕事ができる人材の育成」とし、毎回の朝礼や全体会で確認している。	サブタイトルに掲げる「基礎力・思考力・実践力」の内容を学課ごとに具体化し、それを意識しながら教育実践に励むことが大切である。	教育目標の形式的な唱和から脱却し、一人一人が教育目標を達成した学生の姿を意識できるよう研修を重ねることが大切である。
	② 教育理念・教育目標は、社会のニーズに合っているか。	4 (4)	社会は、本校が目指す「基礎力・思考力・実践力を身につけた人材」を求めている。今後とも世界で活躍する人材の育成に力を注ぎたい。	社会が求める人材像を意識しながら教育実践に励むことが大切である。	
学校運営	① 学校の教育目標に沿った運営方針・事業計画を策定し、運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか。	4 (3)	本年度は、3回のマネージャー合宿を通して、ブランドコンセプト・教育目標・運営方針の連関について議論を重ね明確化する努力を重ねた。今後は、全職員がそれを共有する手だてを講じる必要がある。	学校移転後の学校体制や提供する教育内容を念頭に、中長期の事業計画をたてていきたい。	ブランドコンセプト・教育目標の考え方がより明確になったと感じる。
	② 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4 (4)	ホームページ、ツイッター、インスタグラムを通して積極的な情報公開に努めてきた。海外展開を踏まえたHPの再構築が課題である。	海外展開に強い企業に相談をしながらHPの大幅改訂を実施しているところである。	職業実践専門課程申請(国際ホテル科)は、情報公開について見直す良い機会となった。
	③ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。また、オンライン授業等への対応は進んでいるか。	4 (3)	管理システム S-Wing の活用は浸透してきた。使い勝手をよくする工夫が必要だと考えている。事務の分野ではDX化が進みつつある。	教務の分野では、移転後を見据え、グループウェアの導入も検討したい。	学校移転を視野に入れた新たな学校事務補助システムを構築することも検討したい。
教育活動	① 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3 (4)	本年度教育目標を再吟味した。新たな目標は浸透したが、基礎力・思考力・実践力を意識した教育内容の定着にはもう少し時間が必要である。教職員は目標達成に向け努力を重ねているが、就職率・進学率は満足いく結果とはなっていない。	学生のレベルに応じた指導の工夫、将来像を明確にするための手だてを講じ、学習内容の更なる定着を図っていきたい。	
	② キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	3 (3)	年々、より実践的なカリキュラムが構築されている。それを学生の実力としていくために、教育の両輪として基礎的な日本語力の醸成にさらなる工夫や仕掛けが必要である。	知識から行動として定着・実践できるよう、科目間・講師間の進捗状況の情報共有を活発にしていきたい。	職業実践専門課程の認定という明確な目標が、さらなる企業との連携強化を推進する効果があった。
	③ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が行われているか。	4 (4)	国際ホテル科において、1年生・2年生それぞれホテル様へのインターンシップに参加。前年の内容を振り返り、フロント周りの研修も入れて頂き、生徒からは好評であった。引率教員の不足は引き続き課題である。	来年度は生徒数が増えるため、更に引率教員不足解消のため、スタート時期をずらしたり短期にしたりなどホテル様とご相談しながら工夫をしていく。	就職を見据えたインターンシップを目標としていたが、今年度有難いことにヒルトン福岡シーホークにて1名内定を頂いた。来年度は3社のご了承を口頭で頂いている。詳細は今後詰めていく。
	④ 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3 (3)	学生からのアンケートによる授業評価や教員評価を行いフィードバックしている。非常勤教員に対するフィードバックが不十分である。	非常勤教員に対しても学生アンケートに基づいたフィードバック面談を実施したいと考えている。	

	評価項目	評価（昨年度） ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課題	今後の改善方策	特記事項
	⑤ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか。	4 (4)	TOEIC・英検・情報処理・ワープロ検定・日本語能力試験等を取得するための学びは体系的に位置付けられている。より高みを目指して指導・支援に励みたい。	学生の資格取得率は必ずしも高くはない。日ごろの授業を通じた学生へのさらなる動機付けが必要であると考え。	本年度は長期休業中英語科学生に対する秘書検定合格に向けた講座を開き合格者を生んだ。
	⑥ 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4 (3)	H&G に依頼して実施する研修は成果をあげている。今後は、従来の外部研修会を軸に非常勤教員をも含めた校内の研修会を充実させていきたい。	本年度は外部講師によるキャリア開発研修を実施。来年度以降、研修の厚みを増していきたい。	全専各・福専各の研修を軸に能力や経験に応じた研修体制の確率を目指したい。
学修成果	① 就職率・資格取得率の向上が図られているか。	4 (4)	長期休暇中に就職活動にプラスになる資格講座を開講、資格取得学生が増えた。さらに上級資格を目指せるよう今後も継続して提供したい。	授業内はもちろん、授業外で提供できる資格取得講座の種類を増やすなどさら充実していきたい。	資格取得した学生は上級資格を目指しモチベーションの向上が見られた。
	② 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。	3 (3)	卒業後の動向を把握するためには多くの改善点があるが、現状でできる限りの効果把握を行っていると考え。今後更なる仕組み作り・工夫に取り組みたい。	卒業生の社会人講話の機会を増やすなど、学校と卒業生の接点を増やしていきたい。	当校をキャリア形成の基盤と捉え、継続して訪れる卒業生もおり、改善の効果は表れている。
学生支援	① 学生相談に関する体制は整備されているか。	4 (3)	学生相談に応じる体制は明確で問題を早期に解決することができているが、経験が少ない教職員が増えたため対応に苦慮することもある。通訳アルバイトの退職に伴い、今後ベトナム人学生からの相談に対応できないことも予想される。	今後ともタイムリーで適切な支援が行えるよう努力したい。	
	② 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4 (4)	公的制度・各種奨学金・修学支援新制度について、学生への周知を徹底している。学生相談に適時対応し適切なサポートを行っている。	学生への周知、教員と事務局との連携及び情報共有を行い迅速に対応する。	・文部科学省高等教育修学支援新制度対象校 ・外国人留学生学習奨励金制度対応 ・学校独自の奨学金制度実施
	③ 保護者と適切に連携しているか。	3 (3)	日本人学生の保護者には日常的に理解と支援を求めている。しかし、連携して取り組むレベルにまでは至っていない。留学生に関しては、問題が発生した時、適切に協力しながら対応にあたっているが遠方である上、言語の壁が存在するため必ずしも連携がうまくいくことばかりではない。	専任職員も念頭に置きベトナム人を含めた多くの学生を支援ができる体制の整備が求められる。	
	④ 卒業生への支援体制はあるか。	3 (3)	卒業生の追跡が十分ではないと認識している。今後は卒業生との連携を深める体制を整えていく。	同窓会組織をもっと強固なものにし学校と同窓会の連携を強化する。	LINKEDIN を活用する事を模索中
	⑤ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	3 (3)	現在は特に行っていない。今後は連携校を探すなどの動きが必要になる。	現在交流がある博多高校や福岡海星女学院高校が有力な相手先となる。	職員の交流機会を模索したい。
教育環境	① 学内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。	3 (3)	英語科学生を対象に研修・インターンシップの機会を作っている。令和5年度に関しては、タイの研修、インドネシアでのインターンシップを企画・実施した。タイに関しては福岡県による海外研修プログラム支援「令和5年度 世界に打って出る若者育成事業」にて、本校の企画「～SDGs であつなぐ～ 福岡・タイ エクスチェンジプロジェクト」が採択され	基礎力・思考力・実践力を総合的にバランスよく身に付く独自の研修企画を今後も実施していく方針ではあるが、英語力の低い学生でも参加できるような内容も企画していく必要がある。	国際ホテル科において、今年度ホテルビジネス実務検定に3名合格。校舎移転までは現状維持の予定であるが、日本人向けの難しい教科書をどのように活かして教えていくか、引き続きの課題である。

	評価項目	評価（昨年度） ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課題	今後の改善方策	特記事項
	校内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3 (3)	たため、6名の選抜試験に合格した英語科学生を対象に計14回に亘る事前研修をその後8日間現地で研修を実施した。 https://fflc.ac.jp/pdf/230829_thai_kenshoo_program.pdf インドネシアでは3名の英語科学生が現地旅行代理店にて5日間のインターンシップを経験した。 国際ホテル科においては、来年度もインターンシップを行い、就職活動に活かせるよう整えたい。授業内の実習については、実習機材は変わらず少ないままであるが、外部の先生方にご協力頂きながら、サービスの実技を教えて頂いている。	国際ホテル科においては、来年度のインターンシップについて詳細を詰め、先生方にご協力を頂きスタートに向けて実技の練習を行っていく。また、ホテル様にご迷惑をかけないように、マナーや挨拶を前期に集中して教え、学ぶ体制を早期に整える。	
	② 防災に対する体制は整備されているか。	4 (4)	消防法に定められた防災訓練を確実に計画・実施している。 本校の実情に合わせて午前と午後の2回に分けた訓練を実施するとともに、所轄の消防署に確実に実施報告を行っている。	命に関わる問題であり学生を指導する職員の防災意識を更に高めていく取組が必要である。今後は職員の図上演習も考慮に入れたい。	
学生の受入募集	① 高校・高等専修学校等に対して情報提供等の取組が適切に行われているか。	3 (3)	福専各広報委員会が作成する「福岡県専門学校案内」に沿った情報提供を実施している。今後は、その内容を広く知らしめていく工夫が求められる。	進路情報、資格取得情報ともに各情報を集計した資料の作成が必要。それをもとに募集活動に活かしていく。	
	② 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は、正確に伝えられているか。	4 (3)	説明会やガイダンスにて資格・就職に関する情報を直接伝えるほかに、各進学情報サイトを更新する際は前年度の実績を反映させている。	特に日本での就職を希望している留学生は就職実績に注目している方が多いため、最新の情報を積極的にアピールする必要がある。	
財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4 (4)	財務基盤安定のためには学生数の継続的確保が要となる。社会ニーズに応じたコース設置やカリキュラム整備など選ばれる学校を目指し、且つ適正な収支バランスのとれた学校運営が必須である。	安定した学生数維持のため各部署が協力体制をとり、より強固な財務状況を維持する。	
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4 (4)	財務諸表については、予算対比・前年度対比・社会情勢等を鑑み適正に作成されており妥当なものとなっている。	中長期事業をもとに精度の高い財務予測を行っていく。	
法令等の遵守	① 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4 (4)	監督官庁である私学振興課及び出入国管理局に適宜適切なアドバイスを求めるとともに連携を深めていく。	関係行政機関等への早期の報告・相談を心がける。	数年来、福専各会長校として模範的運営を心がけてきた。今後もその方向に変わりはない。
	② 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4 (4)	2015年から実施している学校自己評価の結果に基づき毎年改善を行っている。課題を共有し、スピーディーに改善策を実行に移していくことが大切。	マネージャー会議を軸に方針を明確にするとともに職員の意識を更に高めるようにする。	
地域貢献・社会	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4 (4)	留学生の派遣依頼に対しては積極的に参加奨励すると共に協力的な学びについても配慮していく。	社会貢献・地域貢献活動を更に充実させる。	恵まれた教育環境を更に活かす取組にチャレンジしたい。

	評価項目	評価（昨年度） ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課 題	今後の改善方策	特記事項
	② 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか。	4 (4)	外部との交流イベントやボランティア活動参加は学校として積極的に奨励している。本年度も学校前道路の清掃活動に取り組んだ。	ボランティアに取り組んだ学生を顕彰する仕組みをつくる。	世界水泳のボランティアに参加した学生もいる。
国際交流	① 留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行われているか。	4 (4)	留学生の受け入れに関しては、オンライン説明会に 20 回以上参加したほか、海外の学校に直接訪問し、現地のセミナーに参加するなどして幅広いアプローチを行った。また立命館アジア太平洋大学をはじめ新たに複数の学校・機関との MOU を締結した。今後も積極的な活動で幅広い国からの留学生を受け入れたい。派遣については、小学校・高校のイベントに当校の留学生が参加し国際交流を行った。留学生の人数と国籍の多さを強みとし、さらなる国際交流に活かしたい。	留学生の派遣先の学校を増やし、国際交流を推進することで、学校の認知度の向上から募集活動へつなげる。	
	② 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4 (4)	本校は担任制に基づいた学習指導と生活指導を基本としているが、教務部と事務局が連携を図りながら充実した指導を目指す。	常に学生ファーストで学科の枠を超えてサポートしようとするマインドを形成していきたい。	

福岡外語専門学校

学校関係者評価委員会運営規程

(趣旨)

第1条 専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に基づき福岡外語専門学校（以下「本校」という。）に学校関係者評価委員会（以下「委員会」という。）を設ける。

(目的)

第2条 委員会は、本校の教育活動全般に関し、学校長に助言することを目的とする。

(委員会の構成)

第3条 委員は5人以上7人以内をもって組織する。

2 委員は次の各号に掲げる者とする。

- 一 認定過程における業界関係者 1名
- 二 卒業生 1名
- 三 保護者 1名
- 四 地域住民 1名
- 五 中学校、高等学校の校長、進路指導担当者等 1名
- 六 学校運営に関する専門家 1名
- 七 地域の地方公共団体等の関係者 1名

3 委員会に委員長を置き、学校長をもって充てる。

(委員会の任命)

第4条 委員の任命は学校長が行う。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は任命の日からその年度末までとする。

- 2 委員は再任することができる。
- 3 学校長は、特別の事情があるときは、任期満了前に当該委員の任期を解くことができる。
- 4 委員に欠員が生じた場合には補充することができる。ただし、その任期は 前
任者の残任期間とする。

(委員会の開催)

第6条 委員会は毎年少なくとも2回以上開催しなければならない。

(個人情報等の保持)

第7条 委員は職務上知り得た個人情報の中に個人情報等の内容が含まれる場合、それらを漏らしてはならないものとする。なお、委員を退いた後も同様とする。

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会運営上必要な事項は、学校長が別に定める。

附則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

令和5年度 福岡外語専門学校 第1回学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時

令和5年6月16日（金） 15時から16時30分

2. 場所

福岡外語専門学校 101 教室

3. 出席委員

外部委員 (株) プレジデントホテルハカタ 代表取締役 (業界関係者代表)

外部委員 福岡外語専門学校同窓会 副会長 (卒業生代表)

外部委員 (株) キュー・エス・エヌ 代表取締役 (保護者代表)

外部委員 トリゼンフーズ (株) 代表取締役会長 (地域住民代表)

外部委員 福岡海星女子学院高等学校 副校長

内部委員 福岡外語専門学校 理事長兼校長

内部委員 福岡外語専門学校 法人本部長

内部委員 福岡外語専門学校副校長

4. 欠席委員

なし

5. 報告事項

(1) 職業実践専門課程申請にかかる進捗状況について

(2) 本校教育目標の学科・コース等について

(3) 学校の自己評価について

(4) 令和5年3月卒業生の進路状況について

6. 議事の経過

(1) 職業実践専門課程申請にかかる進捗状況について

副校長が、職業実践専門課程認定必要な5つの要件（①教育課程編成委員会を設置しカリキュラムを編成していること、②企業等と連携して演習・実習等の授業を実施していること、企業等と連携して教員研修を実施していること、④企業等が参画して学校評価を実施していること。⑤学校のカリキュラム等をHPで情報提供していること）について概説。本校はすでにその要件を満たしていること、国際ホテル科については本年度申請の方向であること。国際ビジネス科については、順次課題を解決し来年度以降の申請を期することを報告した。

(2) 本校の教育目標、学科・コース等について

副校長が、本年度、国際ビジネス科からホテル・ホスピタリティコースが独立し、新たな学科が誕生したことにくわえ、新しく検討し作成した学科ごとのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと学校教育目標との関連等について概説した。

(3) 学校の自己評価について

副校長が、学校の自己評価表を使いながら、学校で実施する内部評価の項目とそのプロセスについて説明を行った。

(4) 令和5年3月卒業生の進路状況について

副校長が、令和4年度末の資料に基づき、本校の卒業生の状況について概説した。

7. 質疑応答の記録

外部委員：卒業生は就業ビザを順調に取得できているか？

内部委員：昨年度まではN2を持っていない就業ビザが取得できない状況であったが、本年度はN3程度であってもビザがもらえた。入管の基準がよくわからないところである。ホテル科については、昨年度内定率・取得率ともに100%であった。本年度だけの傾向であるとも考えられるので、来年度以降も順調にビザが取得できるよう、日本語能力の向上に努めたい。

外部委員：先生の採用についてどうか？

内部委員：コロナ禍が去り、留学生が戻ってきたため、業界全体として日本語教師が不足して取り合い状態となっている。本校も常時募集しているが応募はほとんどない。10月には新規で60名ほどが入学すると見込まれるため、教員の獲得は急務である。ビジネス科の教員は外部（非常勤講師）にお願いする割合が高い。今後、職業実践専門課程の認定を申請するにあたり、ビジネスを教えることができる専任教員を確保することも視野に入れたい。

外部委員：クラス分けはどのように行っているか？

内部委員：日本語科については、プレイスメントテストを実施し日本語の習得状況別の学級編制を行っている。英語科も同様で、能力別学級編制である。ビジネス科に

については、日本語力が高い学生をキャリアコースに、その他の学生をビジネスコースに配置することになっている。

外部委員：学校アンケートに「レベルにあったクラスにしてほしい」という声があるが？

内部委員：その声を上げているのは、非漢字圏（特に欧米）の学生ではないかと推察する。クラス編制にあたっては、話す・聞く・読む・書くの4技能を総合的に判断してどの学級に配置するかを慎重に判断している。一般に、非漢字圏の学生は、会話力に比べ読み書きの技能が乏しく、漢字圏の学生は、読み書きの力が高いという傾向がある。日本語能力試験（JLPT）に合格することを大切に考えると4技能のバランスがとれた日本語力の育成が必要となる。当該学生には担任が要望を聞き、再度プレイスメントテストを実施して新たな学級に位置づけるなどして対応している。

外部委員：学生は校内イベントに必ずしも肯定的ではないように見えるが？

内部委員：留学生一人一人について見れば、満足していない学生もいると思われる。しかしながら、個別のイベントに参加している学生の評価は高い。要は学生の考え方だと思う。本年度は、英語科の学生が日本語科のGTとして、逆に日本語科の学生が英語科のGTとして相互交流を図ることができた。

外部委員：教師主体のイベントではなく学生に企画させたらどうか？

内部委員：同様な指摘は一昨年、本校の仲裁にあたった福岡大学の学生からもらった。またそれを受け、昨年英語科のイベントは学生に任せてみた。結果、満足度が上がった。

外部委員：人材を獲得するためにどのような取り組みを行っているか？

内部委員：先生たちの交流の機会を増やすことが大切だと考えている。今年、国際文化から学科を超えて授業を実施しないかという提案があり、多くの先生が手を挙げた。学生理解の促進に加え、相互理解につながるよい試みだと思う。

外部委員：私の会社（保険関係）では、様々な資格を取得することを奨励。取得した従業員には、給与面で優遇するという方法をとっている。職務上の技能が給与に結びつく仕組みを整えることが大切ではないかと考える。

内部委員：人材獲得のためには、給与等、待遇の改善が必要だと考えている。そのために、新規事業を立ち上げ収益性を高めたり、授業料を値上げして原資を獲得したりする努力を重ねたい。

令和5年度 福岡外語専門学校 第2回学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時

令和6年3月5日（金） 15時から17時00分

2. 場所

福岡外語専門学校 101 教室

3. 出席委員

外部委員 グローバルイノベーション事業協同組合 専務理事（業界関係者代表）

外部委員 （株）キュー・エス・エヌ 代表取締役（保護者代表）

外部委員 トリゼンフーズ（株）代表取締役会長（地域住民代表）

外部委員 福岡海星女子学院高等学校 副校長

内部委員 福岡外語専門学校 理事長兼校長

内部委員 福岡外語専門学校 法人本部長

内部委員 福岡外語専門学校副校長

内部委員 福岡外語専門学校 顧問（オブザーバー参加）

4. 欠席委員

田籠 瑠子 福岡外語専門学校同窓会 副会長（卒業生代表）

5. 報告事項

(1) 令和6年度卒業生の進路状況・取得資格・イベント等について

○卒業生の進路については資料に示す通り。学科によって差異がある。本校の卒業生の状況について概説した。国際ホテル科、国際キャリアコースは現時点で就職率100%を達成している。また、国際文化科（進学コース）も進学率86%と検討している。反面、英語科の進学率・就職率ともに低迷していることが大きな課題である。

(2) 学生アンケートの結果について

○学生の学校満足度は88.1%、授業の満足度も85.1%と高い。しかし逆に読むと10～15%の学生が満足していないという結果。学生のニーズをとらえ改善すべき点は改善する必要がある。

○自由記述からは、①授業中のおしゃべりなど学習規律を守らない学生に厳しい態度で接すること、②先生の学生に対する態度の改善（学生の声に耳を傾ける）、③施設（図書館等）の充実、④学生同士の交流の活性化が必要であることが読み取れる。

6. 議事（協議事項）の経過

(1) 学校の自己評価(教育目標・学校運営・教育活動・学習成果)について

自己評価表に基づき、学校教育全般について説明を行った。本年度に行ったマネージャー合宿では、学校教育目標の具体化について論議した結果、教育目標を「いつでもどこでもだれとでも働くことができる人材の育成」とし、「基礎力・思考力・実践力を身につけた人材を育てます」という文言をサブテーマに置いた。新教育目標は教職員間に浸透してきている。学生の資格取得率も向上してきていることから、概ね適切に運営されているとの考えを示した。

○英語科の結婚・その他について、結婚はわかるがその他の内容は？（外部委員）

●ほとんどが海外志向である。ワーキングホリデー先を探している学生である。

●近年の円安・物価高で留学費用が高騰してきている。そのため、働きながら学べるワーキングホリデーにシフトしてきていると考えている。

○それならば、学校のHPでそのような学生を例にもっと公表すべき。（外部委員）

○英語科に限らず、多言語を話す学生は貴重な存在である。飲食業界でも外国人従業員は年々増えている。私の会社でも、ベトナム人に若女将を任せている。有能な外国人をしっかりと育成してもらいたい。（外部委員）

(2) 学生支援・教育環境・学生の受入について

自己評価表に基づき説明を行った。本年度は、タイ・インドネシアに学生を送り出した。中でもタイとの交流は、「令和5年度世界に打って出る若者育成事業」として福岡県からの助成を受け行ったものである。結果としてズ場らしい成果を修めたと考えている。学生支援の面でもよくできていると考える。担任制をひいているためレスポンスもよい。反面、保護者との連携は充分とは言えない面がある。留学生の保護者には連絡体制ができていないか、学校からの一方的な連絡に終始している。日本人学生の保護者とも連携するまでには至っていない。

○それだけの成果があったのであれば評価は4でもいいのではないか。（外部委員）

●確かに成果を上げたが、継続的に交流ができる仕組みをつくることが重要だと考えている。今後仕組みが出来上がれば最高評価に値する。

○昨年、福岡海星女学院高校から2名の生徒が入学したが、この学校での様子が伝わってこない。高校との連携教科のために学校訪問を行うべきではないか？（外部委員）

●確かにその通りである。以前行っていた高校訪問を再開した上で、生徒募集の担当者だけでなく学生の実情をよく知った転任も訪問に参加するなど、内容を充実発展させていくことが必要である。

○英語科は、TOEICにしても英検にしてもよい成果を修めている。また、ワーキングホリデーで新たな発見をしている卒業生をオープンキャンパス時や、HPで紹介するとよいのではないか。（外部委員）

●今後そのようにしていきたい。

(3) 財務・法令遵守・社会地域貢献・国際交流について

自己評価表に基づき説明を行った。財務状況は安定している。日常業務も法令に基づき適切に行っている。今後更に意識を高めるため、3月に東京より顧問弁護士を招聘してコンプライアンス研修を行うようにしている。

○特に発言なし。

(4) 全体を通しての感想・アドバイス

○将来に向けて特定技能分野を含めたビザ取得を検討してはどうか。それは留学生の就職率の向上に寄与すると思う。世の中は外国人人材を求めている技人国を目指しつつも検討が必要な時期に来ているのではないかと考える。(外部委員)

○英語科の進学・就職率の結果が気になる。学生の指導・支援に一層の努力を積み重ねてほしい。(外部委員)

○飲食業のみならず、多くの業界が外国人人材を必要としている。客として来店する外国人も急増している。日本語はもちろん、ビジネスの基礎を身につけた人材をしっかりと輩出して欲しい。(外部委員)

○英語科の魅力をアピールする努力が足りない。英語科の魅力を発信すべき。HPの中にタイのランシット大学に進学しタイで起業した徳永君のビデオクリップが掲載されているとの話であったが見つげにくい。もっと前面に出して広報すると良い。大学の英文科との差別化も大切。本校に来れば何ができるようになるかを強調することがとても大切だと考える。(外部委員)